

# かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター  
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

## 野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物 検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察できる自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察できる樹木観察園（旧林業試験場時代の約50年前に整備）があります。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

### <春のスミレくらべ>

毎年、3月から5月にかけて園内では様々なスミレの仲間が見られます。近年観察されたスミレの記録をまとめると、園内で見られるだいたいの種類と開花時期がわかります。

今回は自然観察園でよくみられる代表的なスミレをご紹介します。スミレは種類が多く、見分け方を覚えるのもなかなか大変ですが、開花時期や花の色だけでなく、葉の形や花のうしろの袋状の部分「距（きょ）」の形なども判別のポイントになります。

自然観察園を散策する際は開花時期の表を参考に、スミレ比べをしてみてください。

自然観察園のスミレ開花時期（2016年～2020年）

種名	3月			4月			5月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
アオイスミレ							
タチツボスミレ							
ナジスミレ							
ナガバノスミレサイシン							
ヒメスミレ							
マルバスミレ							
アカネスミレ							
ニョイスミレ							

上旬：1～10日 中旬：11～20日 下旬：21～31日

#### 早春に咲く アオイスミレ



花：花弁が波打ち、上の2枚がウサギの耳のように立ち上がる  
距：上向き  
葉：心形で両面に毛が密生する



#### 観察園の代表種 タチツボスミレ



花：淡紫色で、花弁は丸みがある  
距：紫色で、細長い  
園内のいたるところでみられ、開花時期も長い



#### 白くて丸い マルバスミレ



花：花は白く、花弁が丸みがある  
葉：心形で丸みがある  
葉や茎に毛が多い  
谷戸の斜面や林縁でみられる



#### 白くて小さい ニョイスミレ



花：白く、下に紫色のすじが入る  
距：短く丸い  
別名ツボスミレ。谷戸の観察路沿いで多くみられる



## <幼鳥との出会い>

自然観察園の谷戸では1月末頃からシジュウカラやホオジロなどのさえすりや、キツツキ類のドラミングが響き、繁殖の準備が始まります。木の枝などの巣材をくわえて飛び姿も観察され、巣作り、産卵、そして忙しい子育てシーズンへ突入します。春から初夏にかけて、巣の中のヒナへ餌を運ぶ親鳥の姿がよく観察されます。

### ヤマガラ 巣立ちヒナ



じっと動かない...

ヤマガラの巣立ちヒナ

<成鳥とのちがい>

- ・翼、尾が短い
- ・くちばしの端が白っぽい
- ・体の色はやや薄い



成鳥

5月末に出会ったエナガの幼鳥にはもうふわふわの羽毛はありませんが、まだ親鳥とは体の色などが少しちがいます。

ネムノキの梢に数羽が飛来し、細やかに飛び回りながら、時々枝先に停止。若葉に隠れながら、上空の気配をしきりに伺っていました。猛禽類などの天敵から自分で身を守るためにはいつも周囲に気を配ってはいけません。しばらくして、小さな鳴き声を交わしながら、数羽が一緒に林の奥へと飛んでいきました。

### クロツグミ 幼鳥



落ち葉をガサガサ...

クロツグミの幼鳥

<成鳥とのちがい>

- ・雨覆の縁が白い
- ・脇が橙褐色
- ・くちばしが黒い
- ・背が灰黒色



成鳥(オス)



枝をくわえるハシボソガラス(左)  
繭のようなものから糸をとるエナガ(右)

やがて大きく育ったヒナたちは巣立ちを迎えます。園内では巣立ったばかりの野鳥の子どもたちを見かけることが多くなります。2020年に会った初々しい鳥たちの様子をまとめました。

5月上旬に出会ったのは、やわらかい羽毛に包まれたヤマガラの巣立ちヒナ。谷戸の切り株にぼんやりとした様子で止まっていたところをパチリ。まだ警戒心がないのか、近づいても逃げません。少し離れたところでは餌をくわえた親鳥がしきりに鳴き、「こっちへおいで!」と誘導しているようでした。しばらくは親鳥から餌の採り方や飛び方、危険なものなどを学んでいくのでしょうか。

### エナガ 幼鳥



上空の気配を  
気にする...

エナガの幼鳥

<成鳥とのちがい>

- ・ほほのあたりが褐色
- ・肩が黒系色



成鳥

8月上旬に自然観察園の一画の小さな谷に設置した自動撮影カメラで撮影されたのはクロツグミの幼鳥。林床の落ち葉をひっくり返してひたすら餌を探したり、日だまりで羽繕いをする姿が見られました。この近くで生まれて育ったのではないかと想像されます。

自然観察園には強風を遮る小さな谷が多いこと、沢や池、斜面林や藪等が隣接し、飲み水や昆虫などの餌、隠れ場所などを得やすいことなどから、野鳥たちが子育てをしやすい環境です。そっと歩きながら、野鳥の子どもたちの成長の様子を、観察してみてください。

# 傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

## ●●● 2020年10月～12月の集計報告 ●●●

### 救護実績

【救護件数上位6種】

種名	件数
キジバト	9
フクロウ	4
アオバト	3
キビタキ	3
メジロ	3
タヌキ	3

【主な救護原因】

鳥類の原因	件数
ガラス窓などへの衝突	18
ネコなどに襲われる	6
粘着剤に絡む	4
交通事故	1

哺乳類の原因	件数
交通事故	2
疥癬症(かいせんしょう)	1



寝たきりから回復したシロハラを放野するところ

野生動物救護ボランティア限定!!

### 特別教室「かわせみクラブ」を始めました

特別教室「かわせみクラブ」は、当センターの野生動物救護ボランティア向け少人数制のスキルアップセミナーです。ここでは野生動物を救護する際に役立つ知識や技術の向上を目的に実施することになりました。と言うと、なんだか難しい勉強会のように思われるかもしれませんが、ボランティアと職員の交流の場になるようにアットホームな雰囲気大切に、職員が企画しました。

まずは、第1回と第2回の内容をちょっとだけ紹介します。



コガモにチューブ(※1)でエサを与えているところ

#### 第1回「いろんなトリをさわろう」

2020年10月17日（土）

＜実施内容＞

- ・鳥の体のしくみ
- ・種類に合った保定方法を実習
- ・体調チェック方法を実習
  - 体重測定方法、栄養状態の確認、糞の状態を観察など
- ・エサを与える時の注意点と実習

※1 エサを自力で食べられない、食べていても体重を維持できない場合などにチューブを使ってエサを直接注入する方法



フクロウのペリットを解体しているところ

#### 第2回「フクロウのペリットを調べてみよう」

2020年11月15日（日）

＜実施内容＞

- ・フクロウの生態について
- ・ペリットについて(※2)
- ・ペリットの解体実習
- ・ペリットを調べるとなにがわかるのか
- ・リハビリ風景を動画で紹介
- ・フクロウのエサについて

※2 ペリットとは、消化できなかった骨や羽根、毛などを固めて吐き出したもの

※「かわせみクラブ」の実施にあたっては、検温、マスクの着用、消毒、換気などの感染症予防対策をしています。

## 冬鳥がやってきた

秋から冬にかけて渡ってくる冬鳥は、どのような原因で持ち込まれるのでしょうか。ここでは2つの事例を紹介します。

### 事例① カムリカイツブリ

受付 No. 200258  
種名 カムリカイツブリ (カイツブリ科)  
受入日 2020年12月19日  
救護場所 横浜市内コンビニの駐車場  
救護原因 ネコに襲われた疑い  
体重 800g (受付時)  
状態 救護時には首の皮膚が裂け、出血が多かったようで夜間救急の動物病院で縫合した後に持ち込まれた



←2020年12月19日  
縫合された首のケガ  
(赤矢印) の他にも背  
中にも咬まれた傷があり、重症でした



2020年12月20日↑  
自力で食べることができず、  
体重も落ちた為、流動食を  
与え始めました



←2020年12月30日  
魚を自力で食べ始め、食欲  
旺盛で威嚇(いかく)でき  
るまでに回復し、体重も少  
しずつ増えていきました



←2021年1月26日  
大型シンクに水をためて  
リハビリを開始



2021年2月18日→  
放野 (887.5g)

### 事例② ツグミ

受付 No. 200285  
種名 ツグミ (ヒタキ科)  
受入日 2021年2月13日  
救護場所 厚木市内の側溝の中で溺れていた  
救護原因 油汚染  
体重 79.5g (受付時)  
状態 全身油まみれ



←↑2021年2月13日  
全身が油で濡れている状態



新しい手袋

ツグミを触った後  
油でテカッている手袋



←羽に付着した  
油を洗浄している様子



↑2021年3月4日  
洗浄後、木の葉や昆虫を自力で食べてリハビリ中